

預言者

イスラエルの人々はエジプトから逃げてようやく神様が約束された所に着いた。各部族や氏族に土地が与えられた。この時は農業や家畜牧畜の生活をやっていたようだ。それである家族には子供が多かった。また手伝ってくれる親戚も多く土も良かった。この家庭はそのため収穫も多くて豊かに生活が出来た。他の家庭は子供が少なく、親戚も少ない、また土も良く無い家庭もあった。その上敵によって攻撃を受けた家庭もまた例えばオオカミに家畜を殺された家もあった。また干ばつや洪水によって収穫が悪くなかった家庭もあった。この人々は豊かに生活は出来なかった。収穫が悪かった時この人々は他の人々から食べる物などを借りることがあったが時には返す事が出来なかっただろう。そのため土地の全部、或は一部を売って借金を返す必要があっただろう。こういう風にある人々は土地をなくしてしまいホームレスになってしまった。自分の土地や農場が無かった為に人の為に働くようになり、またひどい場合は自分を売って奴隷となった事もあった。他の人の為に働いた人とは小作人の事だ。自分の土地農場を売らなければならなかった人はそれを買うことが出来る人に売った。つまり困っている人々は金持ちに自分の土地を売った。それで困っている人は貧しくなり豊かな人々はもっと豊かになった。貧富の差が出来たという事だ。十戒の目的は貧富の差ができない事だったがこういうふうに貧富の差ができてしまった事はイスラエルの人々がちゃんと十戒を守っていなかったという事になる。

レビ記の25章23節に「土地を売らなければならない時でも土地を買い戻す権利を放棄してはならない。土地は私の物であり、あなた達は私の土地に寄留し滞在する物にすぎない。」又24節に「あなた達の所有地においてはどこでも土地を買い戻す権利を認めねばならない。」

25節：「もし同胞の一人が貧しくなった為自分の所有地の一部を売ったならばそれを買い戻す義務を負う親戚が来て売った土地を買い戻さねばならない。」神様はイスラエルの人々の中に貧富の差が出来て欲しく無かった。そのためイスラエルの人々にこういう風に教えられた。しかしイスラエルの人々は守らなかったために貧富の差が出来てしまった。日本にもこういう事があったようだ。学者の佐藤伸弘氏は農家の3割から4割はこういうふうに土地や農場を失ってしまったと言っている。これは1920年代の話だ。

最初はイスラエルの人々には王は居なかった。人々は王が欲しくなった。この話はサムエル記上9章に書いてある。その王の中で有名なのはソロモンという王だ（紀元前931年に亡くなった）。

ソロモン王は宮殿などを建ててイスラエルの住民にそれを維持させた。1つの地域（部族）が1ヶ月ずつの維持費を提供したのだ。この話は烈王記上の4章に書いてある。それから橋や道路やダムなどを作る為に3万人の労働者を集めた。これは一般の人々に家庭の問題となった。この3万人の労働者は王のため道路や橋を作っている間は農場の仕事は出来なくて困った。このためにソロモン王が亡くなった時に部族の一部が反乱を起こしてしまった。ソロモン王は道路、橋、ダム、建物を多く建てたために債務を沢山持っていた。それを返す為に20もの都市を外国の王に渡す事になってしまった。又、先に言っていたようにある家庭は自分の農場をなくしてしまったがこの土地の中に誰も使っていなかった土地は王の物になってしまった。本当は元々の地主に戻るはずだったのが王の物になってしまった。その上ソロモン王は国内でも国外でもよく戦争を行っていたのでそのためにお金が沢山必要だった。これは税金によって集めた。このためにも貧しい人々は本当に困った。

日本にも同じような状況があった。例えば徳川時代に土地の税は35%から45%ぐらいだったようだ。天災が起こったときに税は上がった。ある学者が言うのは大名の収入の8割くらいは参勤交代に使う為に運用されたそうだ。その他に農家は道路の修理とか灌漑、又、参勤交代の為に必要な労働をする必要もあった。一般の農家はこういうふうになんて困っていた。怒っていた。1813年から1868年の間に55年間の間に少なくとも400回もの反乱や世直し一揆が起こったそうだ。これは物価が高い為、大名の管理が悪かった為、また税が高かった為、独占の為に起こったそうだ。その他に小作人の家賃の負担もあった。

土佐の野中兼山（[土佐藩家老](#)）を思い出す。堤防の建設、開拓で米の増産を勧め、森林資源の有効活用を行い藩の財源に充てる。一方で過酷な年貢の取り立てや華美贅沢の禁止などで領民に不満は溜り、逃亡する領民も出てきた。（ウィキペディア）

神様が預言者を遣わしたのはこういう時だった。考古学者によると紀元前の10世紀のイスラエルの民家は全部同じような大きさと同じデザインで皆は同じような生活を送っていた。しかし、同じ所の紀元前8世紀の家を見てみたら大きい家も小さい家もあった。貧富の差が出来て金持ちは大きな家を建てた。

また金持ちの家は皆一つの地域にあって貧しい人のいない地区にあったそうだ。例えばアモス書の11節にかいてあるが金持ちは切り石の家を建て、また金持ちは夏の別荘も持っていた。

それからアモス書の6章に書いてあるが金持ちの夫人達は例えば象牙の寝台に横たわっていた。長椅子に寝そべた。羊の群れから子羊を取り牛舎から子牛を取って宴を開いた。大杯で葡萄酒を飲み最高の香油を身に注いだ。こういうふう金持ちは豊かに暮らしていた。貧しい人々を助けようとは思わなかった。

これはちょっと難しいがアモス書の8章に書いてあるが金持ちは自分に借金している貧しい人々を奴隷商人に売ってしまった。これは8章の6節にある。弱い者をお金で貧しい者を靴1足の値で買い取っていた。また裁判所で裁判官に賄賂を与えたりした。アモスの5章に書いてある。

お前達は正しい者に敵対し賄賂を取り町の門で貧しい者の訴えを退けた。又、お客さんを騙したりした。アモスの8章に：升を小さくし分銅は重くし偽りの天秤を使って誤摩化そうとした。（8章の5節）

アモスの4章1節は金持ちの夫人達を非難してする。サマリアの山に居るバシャンのメス牛どもよ。弱い者を圧迫し貧しい者を虐げる女達よ、酒を持って来なさいと一緒に飲もうと夫達に向って言う者等よ。イザヤも金持ちの夫人達を非難する。例えば3章の16節など：主は言われるシオンの娘らは高慢で首を伸ばして歩く。流し目を使い、気取って小股で歩き、足首の飾りを鳴らしている。耳輪、腕輪、ベール、頭飾り、すね飾り、飾り帯、お守りなど非難する。そして一番ひどい、一番神様が怒る事としてはアモスの2章の8節に書いてある。祭壇のある所ではどこでも売ってその傍らに質に取った衣を広げ過料として取り立てた葡萄酒を神殿の中で飲んでいた。と言うのは金持ちは貧しい人々を圧迫したり搾取したり騙したりしていた。貧しい人々の衣さえ騙し取っていた。貧しい人々から騙し取った衣と葡萄酒を祭壇の前まで持って来て、神殿の中にそれらを持って来た。これは大変な事だ。それから例えばエルミア章の22章に書いてあるが技、恵みの技を行わずに自分の宮殿で正義を行わず頭を立て同胞をただで働かせ賃金を払わない者だ。労働者に賃金を払わなかったと言う事。ヨブ記の24章に人は地の境を移し、家畜の群れを奪って自分の物とした。土地も家畜も盗んだという事だ。孤児の口バを連れ去り、やもめの牛を質くさに取った。こういう風に悪い事を沢山や

ってある人は金持ちになってしまい、貧富の差は出来た。預言者はこの状況を見て悪い人々、金持ちを強くはっきりと非難した。

次回のセッション（新約聖書の第一の話）の準備として

「福音書の政治的背景」（バシル・ムーア）を読んでおいて下さい。